

大草谷津田生きものの里 自然観察会

生きものたちの冬支度

山下美佐子（東金市）

日 時：2016年12月4日（日） 10時30分～12時 天気：晴れ

参加者：10名（大人8名・小人2名）指導員：2名

担当指導員：田島正子 山下美佐子

初冬とは言え、今日は気温 18℃の暖かさ。「生きものたちの冬支度」観察会が実施された。親子、おばあちゃんとお孫さん、初めての方、常連の方等、2歳から70歳過ぎの方達の参加だった。まず、「自然の中の生き物たちはどのようにして冬の寒さと乾燥を乗り切るのだろうか？」と問いかけた。そして、用意したサザンカとアジサイの葉を参加者に触れてもらい、つやがある常緑樹はコーティング、ザラザラの落葉樹は葉っぱを落として冬の蒸散を防いでいること、また、タンポポなどはロゼットを作り、冬の太陽をいっぱい取り入れる工夫をしていると話した。次に、春夏秋によく見た虫たちは冬どうしているのかな？と問いかけ、朝捕獲したムラサキシジミを皆で観た。表は鮮やかな紫色だが、裏は枯葉色。羽を閉じると枯葉と区別できない。隠れ身の工夫に皆感心していた。

生き物は持ち帰らない、持ちこまない約束を再確認し、観察会が開始された。

参加者と一緒に森の落ち葉を探ってみたら、中は湿っていて温かい。どんぐりの根っこが出ているものやダンゴムシ、クモ、ミミズ、ダニなど、たくさんの小さな生き物たちがうごめいている。「落ち葉の中なら、生き物たちは冬暖かく過ごせるね」と参加者の声。伐採木を持ち上げたら、大きな丸々と太ったカブトムシの幼虫がいた。参加者は「自然の中で初めて観た！」と大興奮。朽木の下でキセル貝やミスジマイマイも発見。大きなヤツデの葉裏には、虫眼鏡でしか見えない小さなニッポンマイマイの赤ちゃんがひっついていて、「こんなところで冬越しをしているんだー」と参加者。大きな常緑樹の葉裏は冷たい風雨も当たらず温かく、絶好の冬越しの場所のようです。

明るい谷津田に出ると、落ち葉がはらはらと舞い、青空とモミジの黄葉のコントラストが素晴らしい。子どもたちはモミジを拾って自分の手と比べっこ。大人はチョウセンカマキリの卵のうやナガコガネグモの卵のうを観察。こもの中を皆で観たが、暖かいからか、ミスジマイマイとクモが観られたただけだった。田んぼでは、暖かさに誘われて、キタテハが飛び交い、コバネイナゴもジャンプ。観察会を盛り上げてくれた。

最後にオニヤンマ、モンシロチョウ、オオカマキリなどの写真で成虫と冬の姿をクイズ形式で確認した。虫は卵や幼虫、蛹、成虫など、それぞれ種類によって違った形で見つからないように冬を乗り切っている。冬の自然観察を楽しんでほしいと締めくくった。参加者の感想：・ムラサキシジミの美しさに感動した。・カブトムシの幼虫を自然の中で初めて観てうれしかった。・いい所なのに子どもたちの参加が少なくて残念。・昔の自然を思い出す。・自分は虫が苦手だが、孫には好きになってほしい。・子どもにたくさんの自然体験をさせたい。